

2 横浜市学力・学習状況調査の結果（令和7年4月実施）

（1）学習の取組について

【学力・学習意識の傾向】

豊岡小学校の児童の学力は、横浜市の平均と比べてやや高い傾向にあります。（※1年生は未実施）

- ・ 国語 … 市の平均より0.9点～5.2点上回る。
- ・ 社会 … 0.2点～4点上回る。
- ・ 算数 … 2.5点～7点上回る。
- ・ 理科 … 2.6点～4.3点上回る。
- ・ 外国語（6年のみ）・・・0.4点上回る。

各学年具体的には、

【2年】

国語：文章を読んで、話の大体の内容を理解することができている。しかし、重要な語を考えて選び出したり、登場人物の会話に注目して内容をとらえたりすることは苦手な傾向が見られる。また、習った漢字を正しく使うことは下回る。

算数：どの分野でも市の平均を上回っており、特に数を数えたり加法や減法の場面を式に表したりすることは正答率が高い。また、グラフを比べて読みとったり、個数に着目したりすることは、市の平均を上回った。

【3年】

国語：主語と述語の関係に気付くことが特にできている一方、登場人物の口調を具体的に想像する部分では、平均を下回った。

算数：平面図形、式、数の分野で市の平均を大きく上回っている。一方空間図形には苦手な傾向がみられ、箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり分解したりすることができることは市の平均を下回った。

【4年】

国語：主語と述語の関係に気付くことが特にできている一方、「片仮名で書く語の種類を知り、使う」項目では、市の平均を7%下回った。

社会：土地の高低や土地利用の様子を地図から読みより理解する項目が特にできている一方、地図記号と写真から分かる、実際に歩いた順序を関連付けて考える項目は市の平均を下回った。

算数：式の分野では、すべての項目で市の平均を上回った。一方統計の分野では、苦手な傾向がみられた。

理科：多くの項目で市の平均を上回ったが、「活動を通して得た結果から、考察すること」や、「日常生活で知識を活用すること」など、得た知識を使うことにやや課題がみられる。

【5年】

国語：全体として市の平均を上回り、特に情報活用分野での上回りが大きかった。一方で説明的な文章の分野では、「段落相互の関係に着目しながら、文章の構造を捉える」など、市の平均を下回る項目が多い。

社会：市の平均とほぼ同等。「複数の資料を関係づける」「推移に着目した調査を資料の読み取る」といった項目が市の平均を下回り、資料の活用に課題がみられる。

算数：多くの分野で市の平均を上回ったが、平面図形の分野のみ市の平均を下回った。

理科：多くの項目で市の平均を上回ったが、「結果の見通しをもつこと」「気付いたことや疑問から、問題を見出すこと」「学習した知識を日常に活用すること」など、得た知識を使うことにやや課題がみられる。

【6年】

国語：多くの項目で市の平均を上回ったが、「慣用句の意味」「描写を基に登場人物の心情の変化を捉える」「登場人物の相互関係を捉える」の3項目のみ平均を下回った。

社会：多くの項目で市の平均を上回っているが、資料を基に考えることにやや課題をみられる。

算数：市の平均を大きく上回っている。特に割合と統計の分野が得意な傾向がみられる。

理科：多くの項目で平均を上回っているが、技能を問う問題でのみ平均を下回った。

外国語：ほぼ市の平均と同等。書くことの分野で市の平均を下回った。

といった結果が見られました。

全学年、全教科市の平均を上回っている一方で、学習に対する意識は市の平均と比べて低い傾向にあります。各学年の結果は以下の通りです。

【2年】

・体育や英語活動の学習で自分の考えを相手に伝えたいという気持ちが低い傾向にある。友達とのコミュニケーションの取り方に苦手意識がある。そこで、学習してよかったと実感できるような学習の計画や構成を立てていく。

【3年】

・全体的な学習意識が低く、特に相手の意見から自分の考えを見つめなおすことや、算数では答えの確かめを行うことに対して苦手意識がある。一方で、正答率は市平均より高い数値が出ているものが多い。このことから、もっと学習したい、自分の力を伸ばすことが楽しいと感じられるような学習計画を立てたり、体験的に学んだりできる機会を設けていく。

【4年】

・全体的な学習意識が低い。国語では言葉のもつよさを感じながら国語の学習をすることに苦手意識がある。正答率は市平均より高い数値が多いことから学習内容として理解している。思いや考えを伝えることができる活動を計画的にとりいれていく。

【5年】

・全体的に前年度より学習意識が上がっている。特に社会、理科の意欲が上がっており、昨年度より体験的な学習を意識して取り入れた成果が出ている。これからも積極的に体験的な学習を計画し、学習の面白さを体感できるようにしていく。

【6年】

・全体的に学習意識が低い児童が市平均よりも多くいる。一方で総合的な学習の時間では、「地域の人と関わり合いながら、よりよい地域や社会を目指して活動できている」と答えた児童が市平均よりも上回った。総合的な学習の時間の軸に他の教科の意欲も上がるように支援していきたい。

【生活意識の傾向】

【2年】

学校やまちでの決まりを守ることが大切だと感じている児童が多い。また、自分が「ふしぎだな」「もっと知りたいな」と思ったことや気になったことを調べてみたいなど興味をもつ児童は市の平均を上回る。一方で、自分のことが好きでよいところがあると答える児童が市の平均を下回る。言葉や文字で人に気持ちや考えを伝え合うことが苦手で、相手の立場になって、その人の気持ちを考えるようにしていると回答する児童は、平均よりも低い。自己肯定感を高めるために互いを認め合うことや、自分の気持ちをうまく伝えられた成功体験を増やしていけるようにしていく。

【3年】

ほとんどの設問で、市平均よりも「そう思う」等の前向きな回答が少なかった。ソーシャルスキルが低い傾向がある。「学校はあんしんできるばしょだと思いますか。」に対しては市平均よりも低く、児童同士・教師児童間で安心して悩みを話せる関係性づくりを行ったり、安心して学習に取り組めるようグループ・ペアワーク等の活動を取り入れたりしていく。また、相手の気持ちや立場になって考える力にも課題がみられるため、Y-P から活動を取り入れたり、道徳で場面に応じた実践劇を行ったりしていく。

一方で「『ふしぎだな』『もっと知りたいな』と思うことがありますか。」に対しては「よくある」と回答した児童が市平均よりも高いため、児童の『もっと知りたい』という思いを大切に授業づくりを継続して行えるようにしていく。

【4年】

感性を問われるいくつかの設問について、「そう思う」と答えた児童が市平均よりも少なかった。自分だけでなく相手の立場や気持ちに立って考えることができるようなY-P（子どもの社会的スキル横浜プログラム）を選び取り組んでいく。また、解答から、自分の考えに対して自信がもてなかったり、学習したことを実生活に生かすことができなかつたりする傾向がみられ、成功体験が少ないことが予想される。教科を横断して、学んだ知識を使って生活に結び付けていくようにカリキュラム・マネジメントを行うことやクラス内で発表しあうときに、周りの友達から認めてもらえるような授業を意図的につくっていく。

【5年】

昨年と比較すると、学習意識と同様に、生活意識も全体的に上がっているが、まだ市の平均には届いていない。「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしていますか」は特に低く、学習の中で必要感のある話し合い活動を取り入れていく。また、総合的な学習の時間の活動を充実し、自分たちの想いを実現していくための活動を大切にしていく。

【6年】

「学校や社会のきまりを守ることは大切だと思いますか。」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という設問に対してそう思うと答えた児童が市平均よりも少なかった。学年で暴言・暴力を防ぐためのワークを実践し、自分事とし捉えられるような取り組みを行う。また、ルールを守っている児童を価値づけていく。

【クロス集計で分かった特徴】

「不思議だと思ったり、もっと知りたいと思ったりする」児童ほど、家庭での読書時間は長い傾向がある。「ゲーム機器やスマホを使ってゲームをしているか」については、30 分より少ないと答えた児童の正答率より、3 時間以上ゲームをすると答えた児童の正答率が大きく下がることが分かった。

以上のことから、学校生活よりも、家庭での日常生活が学習に大きく関係していることが分かったので、保護者と連携を取っていく必要がある。

また、「うまくいかないときには～」「かだいがおわたたら、分かったことや～」の「している」数値が低いところから、自分の思いで学習をしているわけではないことが予想できる。そのため、やり方を変える力を付けたり、まとめを行う習慣をつけたりすることや、友達の意見から新しい考えをもつこと、子どもが学習に取り組みたいと思える授業実践を行う必要がある。